

## 「よほろファーム」 代表取締役社長

# 木下千尋さん

## 明日へ向かって駆ける

### 農業法人の経営者は語る

東舞鶴の市街地から南東部へ約2・6キロに位置する舞鶴市与保呂

地区は、常、木ノ下、与保呂の3集落に約200戸の農家が点在し、谷間を舞鶴若狭自動車道の高架が南北に横切る中山間地域だ。同地区の農家107人が株主となって経営する㈱「よほろファーム」代表取締役社長の木下千尋さん(82)は「一会社が核になり、地域の皆さんと力を合わせて、耕作放棄地ゼロを実現していることが自慢だ」と胸を張る。

同社は、1995年に3集落で42畝の圃場(ほじょう)整備事業の完了を機に設立した「与保呂三字営農組合」が前身。任意組織の時代から地域の農家全員で話し合

い、水稻や小豆の生産、米の基幹作業の農作業受託に取り組んできた。

「後継者不足の解消や農地の利用権取得、補助事業の対象となるよう2013年に会社を興したが、3集落で地域農業を守っていく姿勢は変わっていない」と木下さんは話す。

3集落から取締役を2人ずつ出してもらい、集落内をまとめてもらうことで、良好な関係を築いてきた。さらに、J A京都にのくに良食味米研究会の会員となって

「うまい米作り」に地域全体で取り組む、色彩選別機も導入して一層の米品質向上を目指す。

生産した農産物はJ Aに出荷するが、特に小豆の「小倉大納言」は契約出荷先の京都市内の老舗和菓子店から、高い評価を得ている。地区内にはまだ、一筆10畝に満たない水田が約130あり、変形したものも多い。労力を考えると、水稻や小豆などの作物を中心とした経営になるという。高齢化も進む中、小さな水田の草刈りや水管理などの作業は重労働となるが、

少しでも労力を減らすため、これからも水稻や小豆など土地利用型作物中心の経営になる。

そうになると、大型農機のオペレーター確保が経営上の大きな課題だ。木下さんは「人材



▶ 法人所有のトラクターの前で、胸を張る木下さん

# 3集落の力を一つに

をフルに活用し、地域を守っていかねばならない」と話す。地元の農業委員会から農業経営の情報提供を受ける他、猟友会と連携して有害獣を捕獲するなど、地域の人々と協力して取り組む。

木下さんは「法人化して3年半が経過したが、近隣集落からは私たちの取り組みが『うらやましい』との声を聞いている。最大の課題は後継者の確保。元氣な定年帰農者を受け入れて、次世代にバトンタッチできるように頑張っていきたい」と話す。

■法人所在地 舞鶴市木ノ下271、(電)0773(62)7726(木下さん宅)。

■法人概要 2013年1月設立。取締役6人、監査役2人、農繁期にパートタイマー12人。経営面積14・2畝(コシヒカリ6・7畝、特別栽培米2・6畝、酒造好適米「京の輝き」2・5畝、もち米54畝、小豆「小倉大納言」2・6畝、市民貸し出し農園40畝)、農作業受託2畝。農機は、トラクター4台、バインダー2台、コンバイン(小豆用)1台、米乾燥調製機3台、乾燥機1台(小豆用)、色彩選別機1台。